

美術界の傾向(下)

黒田清輝氏談

▲明治になつて西洋畫が入つて來たけれど今の處でハ恠うして描くものだと云ふとを知つた位、云はゞ修學時代マ翻譯時代で、現在の我美術界ハ實に混沌たるものである、自分等ハ如何にして之を描く可きかを習つて居るので、小學校の生徒がいろはを習つて居ると異らぬ。

▲泰西の美術史を見ると種々の起る可き理由もあつて理想派が行はれて居る。例へば希臘や羅馬あたりの神話が典據となつて、泰西の美術家ハ之を描くに甚だ都合よかつたけれど、日本の歴史にハ更に之がない、總てのもの悉く自然派ナチュラリスムである、偶々理想派があつても夫ハ極めて少なかつた。

▲現在我國に理想派の畫を描いて居る人もあるけれど、唯西洋畫の摸倣に過ぎず、之を不可いないと云ふのでハないが、修學時代の我々が取る可き途ぢやないと思ふ。小學讀本も讀まずに大著述が出来るものでもなし理想畫の大作などハ天才を俟つて初めて出来るのだから、何うしても今の處でハ順序としても精を出して一生懸命自然を寫すに力めるより外に途はない。殊に我國性ナショナルイが理想派に適して居ないのだから、我々ハ何處迄も自然派で押し通して行かうと決心して居る。我邦の美術が進歩發達して行くにハ之が唯一の捷路ふかみちで且つ得策なのだ。

▲今より十年前に於ける日本畫家と西洋畫家との間ハ宛然犬と猿の様で、互ひに相敵視し、他を嘲り罵つて自分の田へ許り水を引いて居つたのみならず、西洋畫家の中でも日本畫家の中でも各々派に依つて惡口の言合をして

居たが、近來そんな弊風ハ全く除かれて、先日も上野の五號館が取拂はれるに就て、他に適當な場所を設けねばならぬと云ふので、或る人々が發起になつて美術家の相談會が開かれた。之が十年前なら迎も恁んな會を開くとハ出来なかつたのに吾々ハ大分いゝ傾向になつたと思つて喜んで居る。

▲然し之ハ各派の美術家が協力して其發達の爲に圖るので、美術其ものゝ接近でも何でもないが、現在日本畫家の或る人達を見ると西洋畫の眞似をして、日本畫へ影などを付けて居るのがある、甚だ愚などだと思ふ。元來影ハ物を寫して必然に描かれる可きものだが、吾々ハ西洋畫でも出来るならば成る可く美を添へぬ影などハ描くまいと思つて居る。日本畫に影を添へるのが絶対に悪いと云ふのぢやないが、そんなと許り力めて居るので肝心の特色たる氣韻が漸次消えてゆくのを遺憾とするのだ。

▲前に云つた如く日本畫ハ日本畫の特色さへ發揮すればいゝ。西洋畫ハ又西洋畫の特色さへ發揮すればいゝが、日本畫の氣韻が貴いと云つて少しも形を構はないと云ふのも困るし、西洋畫ハ寫すのだと云つて特更に醜い影迄其儘寫す必要ハないのである。若し其儘を寫すなら直ちに自然を見た方がいゝ。繪畫の美術たる所以ハ目から入つた自然が其人の筆に依つて美化される所にあるのだから。そして漸々進むに従つて氣韻も風致も生じて來る。

▲要するに現在の美術界ハ混沌として今から進む可き途にあるのだから、口で云ふのみならず具体的に之を獎勵する方法を講じたいと思ふ。到底個人に依頼するとハ出来ないから、帝室か或ハ政府の保護を受けるより仕方ない。吾々の希望を述べれば先づ東京に一大美術館を建設して、此處へ總ての繪畫彫塑などを陳列し、新作品をも買上げ、尙優等のものにハ賞狀或ハ賞金等を贈つて貰ひたい。それから毎年一度宛政府の力で展覽會を開く様

などになると殊にいゝが、若し此等の希望が達せられたら、我美術界ハ久しからずして一大精彩を添へるとであらう。(噴水子)

『読売新聞』明治三十九年四月四日